

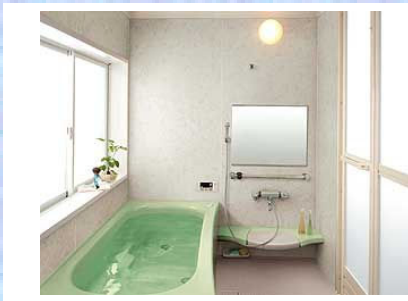


にゅうよくざい 入浴剤をつくろう

じっけん てび
実験の手引き

じっけん ないよう 実験の内容

- 1) お風呂にいれる、入浴剤をつくってみよう。
- 2) その成分や効果について勉強してみよう。



じっけん び
実験日

へいせい 平成

ねん 年

がつ 月

にち 日

なまえ
名前

じっけん どうぐ ざいりょう 実験でつかう道具や材料

プラスチックあるいは金属の型
すり鉢(乳鉢)とすりこぎ(木の乳棒)
ラップとチャック付ポリ袋(おみやげ用)
ポリカップ(受け皿として)

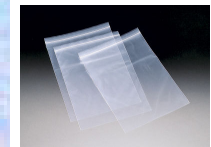
むすいりゅうさん
無水硫酸ナトリウム 11グラム
たんさんすいぞ
炭酸水素ナトリウム 15グラム
くえんさん
クエン酸 8グラム
かお せいぶん
香りの成分 適量



すり鉢とすりこぎ



押し型



チャック付袋



香りの成分

つくりかた

- ①「無水硫酸ナトリウム11グラム」を乳鉢(すり鉢)に入れて、乳棒(すりこぎ)ですできるだけこまかくすりつぶす。
- ②ざらざらっぽさがなくなったらいったんポリカップにといだしておく。
- ③「クエン酸8グラム」を同じように細かくすりつぶし、カップに加え入れる。
- ④「炭酸水素ナトリウム15グラム」も細かくすりつぶす。
- ⑤乳鉢にこれまで細かくした3つと好きな香りの成分を入れて、よくまぜあわせて均一になるようにする。乳鉢に入りきらなかつたら、ポリカップの中でまぜあわせる。
- ⑥ステンレスの型に全てを入れて、「押し板」で強く押し固める。
- ⑦型からそっととります。

入浴剤のできあがり!

(入浴剤をサランラップでつつんで袋にいれてもちかえりましょう!!
 空気にふれると、水分をすってしまうので、できるだけ今日中にお風呂でためてみて下さい。)



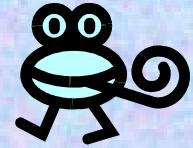
★ 材料の説明 ★

(無水) 硫酸ナトリウム → 温泉にふくまれている代表的な成分。
肩こりや腰痛などに効くといわれている。

炭酸水素ナトリウム → ペーキングパウダーや洗剤にも入っている。
お風呂では炭酸水素ナトリウムが水に溶けると炭酸ガス(二酸化炭素)が発生するので、皮ふの血行を良くし、肌をすべすべにする効果がある。アトピーにも効くといわれている。

クエン酸 → レモンなどのすっぱい柑橘類に含まれる成分で酸の一種。食品中のカルシウムを体の中に吸収するのを助ける働きがある。スポーツドリンクなど清涼飲料にもつかわれている。(入浴剤では、クエン酸が水に溶けるとpHが酸性側になるので、炭酸水素ナトリウムからたくさんの二酸化炭素が発生しやすくなる。)

×モ



★ ミニ知識こうざ ★

入浴剤の歴史

日本は世界でも有数の温泉国で、古来より人々は天然の温泉を利用して病気やけがの治療に、健康維持推進にと役立ててきました。また、同様の目的で薬用植物の利用が盛んに行われ、今日まで伝えられています。薬用植物を用いた薬湯は、端午の節句の菖蒲湯や、冬至の柚子湯のように古くから庶民のあいだに慣習として受け継がれ、江戸時代には治療を目的としたものがすでに処方化され、皮膚病の治療薬湯などに用いられました。明治中期、種々の生薬を配合し、布袋に入れ煎じ出して用いる商品が作られたのが初めてです。

お風呂の語源

私達は入浴することを「風呂」に入ると表現します。しかし「風呂」という言葉は、本来、蒸し風呂を意味していました。蒸し風呂は、蒸気を浴びて身体の汚れをふやかし、こすりだした後、湯で流すという仕組みのため、蒸気をにがさない狭い部屋(室)にこもります。そのため室から派生して風呂の語源が生まれたともいわれています。

一方、私達が日頃行っている入浴スタイルは、江戸時代中期以降(約270年前)確立されたもので「風呂」に対し「湯」とよばれていました。「湯」とは、身体にかけもの(=行水という行為)から、全身で浸かるものに変化し、時代を経るに従い、蒸し風呂が日常生活で見られなくなり「風呂」と「湯」は混同して用いられるようになりました。

参考文献(もっと勉強したい人のために)

- 1) 左巻健男編著、「気になる成分・表示100の知識」東京書籍(2000年)
- 2) 日本浴用剤工業会のHP、 <http://www.jbia.org/>

